



10・5・8 (土)
南NEWS NO 6

サッカーで習っている目・口・手、交通安全にも活かしてくださいね。

4年生春季カップブロックリーグ第2戦 4月25日 (於：鐘水小)
チームのめあて：

①走り勝つ。②プレーの前に声を出す。③ターン・横・スペースへのドリブル。
対諏訪SC 0対1負け(前半0対1) 得点者：なし

前週の第1戦はPK勝ち。この日は、勝てばブロックリーグ突破、トーナメント出場をかけた試合です。

前半。試合開始から積極的に攻め込みます。2分、谷口君がスピードを活かして右サイドを駆け上がりゴール前へクロス。小林君がピタリのタイミングでシュートするも、ゴールポストに当たり得点ならず。その後も、ゴールキーパー高橋君の安定したパントキックを起点とした反転攻撃、中盤から小林君が抜け出して相手キーパーと1対1、右サイドから谷口君、阿部君、ゴール前の小林君へとつなぐ攻撃、左サイド高い位置でのボール保持など、良い形を何度も作り、押し気味に試合を進めます。しかし、9分、カウンターから右サイドをえぐられた後、ゴール正面の集団から蹴られたボールが両チーム選手の間を抜けてゴールに入り、失点。センターバック松宮君を中心に、小山君、鶴田君、小笠原君の守備陣が、スピードあるアプローチで良い守備を続けていただけに、この一瞬が残念でした。

失点後は、押される時間帯もありましたが、森久保君、阿部君、谷口君のハーフ陣のアプローチも速く、横のスペースへドリブルするプレーも出て、各選手の頑張りが目立ちました。11分から15分にかけて、関矢君のシュート、阿部君のコーナーキックからの川窪君のシュートなど、相手ゴールに迫りますが、そのまま前半終了。

後半も、開始早々から、得点を取りに行きます。まず西川君が右サイドで頑張る、チャンスを作ります。1分には右コーナーキック、2分には左サイドでの山崎君のドリブル突破など、相手ゴールに迫る攻撃を見せます。赤田君、浜野君も積極的なアプローチでボールを奪いに行きます。6分・7分と相手チームにミドルシュートを2本打たれたあたりから、中盤の選手が若干引き気味となり、高い位置を保って攻撃しようとする小林君、赤田君の両フォワードとの間が空いてしまう場面が見られました。その後も、各選手のボールへのアプローチや体の寄せは良く、最後の3分は、1点を取りに懸命に攻めます。14分には、小林君が左サイドに持ち込んでシュート、さらに阿部君のコーナーキック2本と続き、最後のコーナーキックは、ヘディング勝負となりましたが、試合終了のホイッスル。残念ながら、得点できずに0対1の敗戦となりました。 b y 阿部コーチ

3つのコミュニケーション目・口・手

矢上は勤務場所への行き帰りを主に徒歩でしていますが、時々、路地から広い通りへ子どもの自転車がノンストップで飛び出してくるのに遭遇します。ヒヤッとします。「よかったね。車が来てなくて」と胸をなでおろします。南の子どもたちは大丈夫でしょうか。とっても心配です。

交差点や信号では、必ず一時停止して、手を挙げて、運転手さんと目でアイコンタクト、停まってくれたら頭を下げて、聞こえなくても「ありがとうございます」と言えたらいいなと思います。

矢上は、いつもそのようにしてして小走りで渡っています。歩行者優先といっても、車の人だって急いでいるのかもしれないよね。互いに思いやりですね。

トーナメント戦への出場ができず、また、前週と通じて無得点に終わりました。とても残念でした。自分なりに頑張ったと思って満足してはいけません。「自分があの場面でもう1人相手を抜いていれば・・・」「あの時に自分がアプローチして相手ボールを奪っていたら・・・」「自分があのスペースに全力で走り込んでいれば・・・」など、自分がもっとやれば良かったと感じる場面が、沢山あったはずですよ。(「仲間があの時のプレーをサボった」とか「相手のファールが・・・」などと考えていては、自分もチームも強くなりませんよ。)

今回の試合では、①シュートで終わる場面を何度か作れた。②各選手が時間いっぱい頑張るようになった(サボる選手がいなくなってきた)。③相手にぶつけるドリブルが減り、横やスペースが使えるようになってきた。④守備陣が安定してきた。という進歩が見られました。

一方、①ゴールにシュートを打ち込む意識をもっと強く持つ必要がある。②浮きダマに対する感覚を鍛える必要がある。③ゴールキーパーがキャッチした時やスローイン、フリーキックなどの場面になった時の切替えが遅い、といった課題も沢山ありました。

最後に、最大の反省点「靴ひも」です。試合中に靴ひもを結び直す選手が何人もいました。もう4年生です。今後は、こんなことが絶対に起きないようにしてください。

次の試合は絶対勝とう！ そのために、目的を理解して、練習しましょう！
b y 川窪コーチ

第34回全日本少年サッカー大会 5月4日 川町G
12B決勝リーグを観戦して



本日、12ブロックの決勝を本部お手伝いがてら見学してきました。結果は優勝、多摩平 Jr 2位大和田 3位シルクロード 4位杉野百草でした。

どのチームも似たような試合展開で、トップに当てて落としのパスをサイドに回してクロスを上げる。又はワンツー突破でシュートまで持ち込む戦術を繰り返していました。

ペナルティーエリア付近でもシュートを打てずにパスを優先する場面も多く見られました。

そんな中でも多摩平は攻守ともに比較的安定しており、まずゴールを狙うという意識は他3チームよりありました。そのことが結果に表れたように思います。

個人技術の向上を基に攻守における1対1の強化、ドリブルで抜く力が必要だと改めて感じた決勝大会でした。

レポート内容としては大雑把ですが、練習課題として参考になればと思いご報告いたします。 b y 小松コーチ



染谷コーチ、相田コーチ、矢上も観ていました。何をしたらよいか、よく分かりました。これからの指導に活かします。

みんなも自分のめあて・チームのめあてをしっかりとって、GAMB Aってくださいね！！